

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	レッド・レンジャー	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.550	△RG	0.038	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：レッド・レンジャー**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

研磨剤

番

**比較対照ボール：ブルー・レンジャー**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

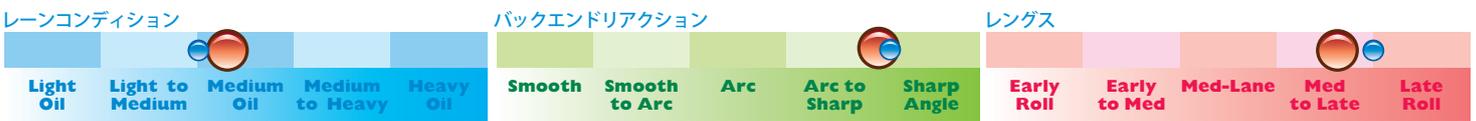
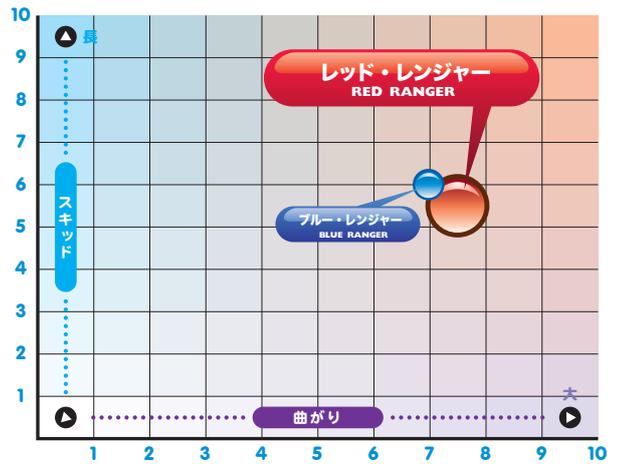
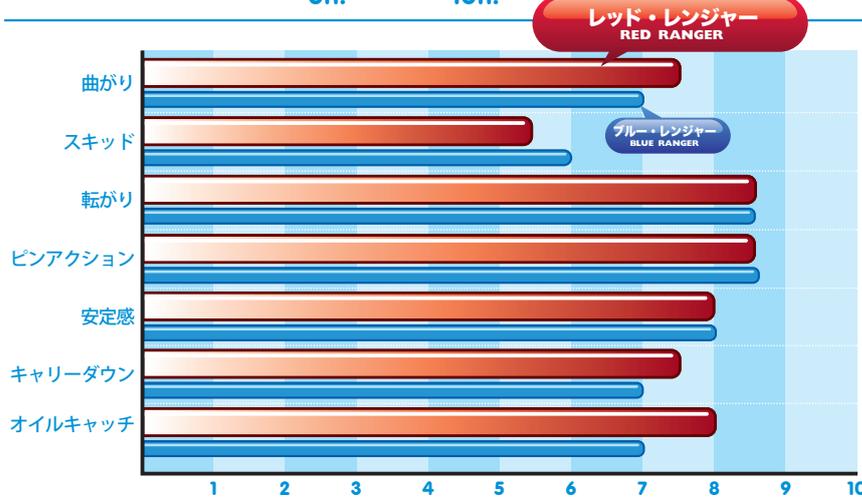
PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

2016年6月、プロアマブランドは既存のCommander、Defender、RaiderからCoverstockとCore Technologyを一新し再始動しました。その後フルモデルチェンジしたINVADER NEOで桑藤美樹プロ、RANGERで久保田彩花プロがトーナメントで優勝を飾り、プロアマモデルの潜在能力の高さが証明されました。現在プロアマブランドでは、Medium Heavy領域でCONQUEST、Medium Light領域でRANGERが位置しており、ABSが取り扱う全製品の中で、このブランドだけが「この領域での最高峰」を目指し開発が進められています。このRED RANGERも最高峰のコンセプトに恥じぬよう、爽快なスキッドとドライエリアからの反応の良いリアクションを信条に発売されます。

このプロアマブランドの最大の特徴CoverStockにあると言っても良いでしょう。

光沢のある表面加工であってもオイル上のキャッチの強さとドライエリアでのグリップが他社を圧倒できることです。

そして他表面の状態を少しずつ曇らせることで大幅にキャッチとイメージの変更を行えることだと思います。

今回のRED RANGERはRANGERシリーズを通して採用させているEver-True Symmetrical CoreとHyper X Hybrid ReactiveでRANGERシリーズ中、一番オイルに強く、またBackendの動きを大きく仕上げました。

RANGERは通常で多く使われる領域から少しスキッドを長くさせ、少し遅めに感じてきたコンディションやインサイドに入り始めた時に、やや外に向けて戻しやすいようにスキッドをBackendの動きに重きをおいています。ややオイルが多い時には多少すべりを感じるのMedium Light領域ですが、中心に使っているボールが動き始めてからは、このRED RANGERで動きがみて取れるはず。オイルの中を泳がずというよりは、曲がるポイントが見え始めた時に、RED RANGERでそのポイントに合わせて投げればラインが見えるぐらい、Medium Light領域としてはやや性能を強めて仕上げているのも特徴です。

### 特記事項

**価格帯と性能領域だけで侮ることなかれ。**

**幅広いコンディションをモーラし、メリハリのあるリアクションが特徴です。**